



第二東名高速道路建設に伴う発掘成果

にしとみおか むこうぼた 西富岡・向畑遺跡 (伊勢原市No.160遺跡)

中世～古代の集落跡を発掘

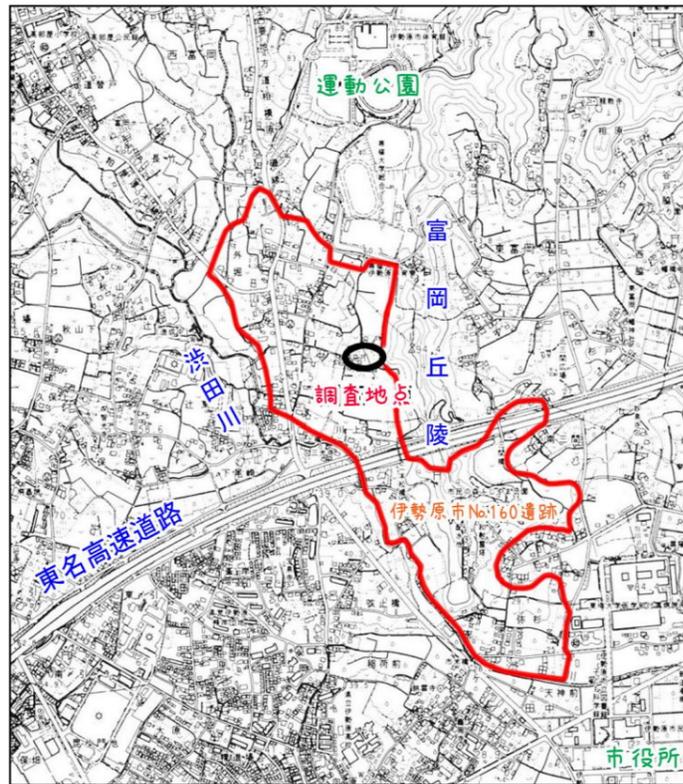
にしとみおか むこうぼた
西富岡・向畑遺跡の発掘調査

伊勢原市西富岡に所在する西富岡・向畑遺跡は、中日本高速道路株式会社が計画する第二東名高速道路建設に伴う事前調査として、2007年4月から発掘調査を実施しています。

西富岡・向畑遺跡では、これまでの調査によって、中世の建物跡、古墳時代末から平安時代にかけての集落跡、縄文時代中期から後期にかけての集落跡が発見され、たくさんの遺物が出土しました。今日はその中でも、9区の中世建物群と5区の古代住居跡を中心に発掘調査の成果の一部を紹介します。



上の写真は、4区で出土した安山岩製の槍先形尖頭器です。旧石器時代の石器です。この石器の周辺からは、多数の黒曜石などの剥片が見つかりました。



遺跡の位置

これまでの主な発見遺構と出土遺物

—発見遺構—

中・近世: 竪穴状遺構、掘立柱建物、地下式坑、地下室状遺構、道状遺構、溝状遺構、井戸、土坑 など

古代(奈良・平安時代): 竪穴住居、竪穴状遺構、掘立柱建物 など

縄文時代: 敷石住居、集石、埋甕、帯状粘土列 など

旧石器時代: 礫群

—出土遺物—

中・近世: 陶磁器・かわらけ・宋銭 など

古代(奈良・平安時代): 土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、銅製品(鎧帯金具・巡方・丸鞆)、金銅製品(飾り金具)、鉄製品(刀子)、石製品(砥石)、温石、土製品(土鍾)

縄文時代: 縄文土器、打製石斧、磨製石斧、管玉

旧石器時代: 槍先形尖頭器(安山岩)、剥片(黒曜石)など



9区の地下室状の遺構写真です。右上の黒く見えるところが入口になります。地下式坑は垂直に竪穴を掘るのが一般的ですが、この遺構は斜めに入口を掘っています。入口周辺からは、多数の河原石が見つっています。9区からは、現在のところ他に2基の地下式坑が見つっています。出土遺物としては、宋銭が2～3枚ほど見つっています。



9区2号地下式坑

9区2号竪穴状遺構

9区の竪穴状遺構の写真です。9区からは、7基の竪穴状遺構が見つっています。左の写真は、2号竪穴状遺構です。2号竪穴状遺構の北側には、この竪穴状遺構より古い地下式坑が作られています。2号竪穴状遺構の床面からは、焼土が一面に広がって見つっており、火事になったと思われます。焼土上から釘が1本見つっています。



釘出土状況



第二東名高速道路建設に伴う発掘成果

西富岡・向畑遺跡(伊勢原市No.160遺跡)

2008年11月15日

財団法人 かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市南区中村町3-191-1

TEL 045-252-8689 <http://www.kaf.or.jp/>



赤丸は、今回の調査で発見された遺構・遺物のおおよその時期を示しています。



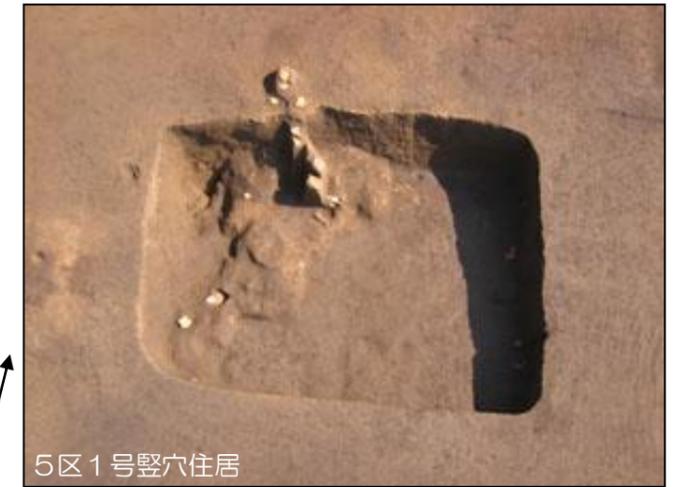
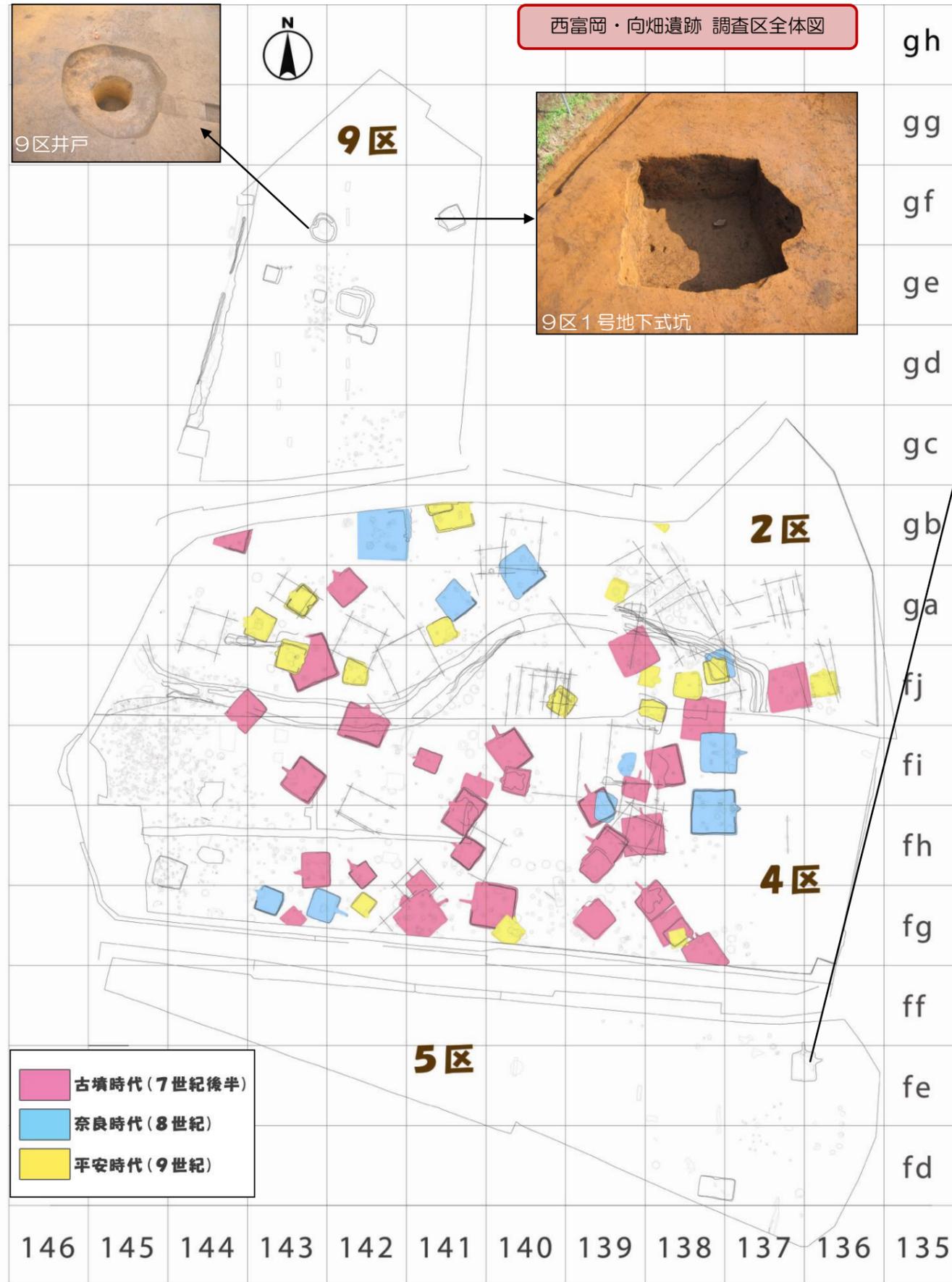
9区作業風景



9区6号竪穴状遺構

9区4号竪穴状遺構

9区からは、7基の竪穴状遺構、2基の地下式坑、1基の井戸、掘立柱建物群など、多数の遺構が見つかっています。現在も調査は継続中ですので、今後も中世の遺構は増えることが予想されます。調査が終了した2・4区でも、1基の地下式坑や掘立柱建物群など多数の遺構が見つかっています。調査中の5区からも、からわけや常滑の甕、宋銭などが見つかっており、本遺跡は中世の集落もあったと思われます。また、調査して分かってきたことですが、中世の柱穴は平面が四角い形状をしており、古代の柱穴は丸い形状をしています。柱に使う木材の加工度合いが違うのでしょうか。中世の掘立柱建物の柱は、柱穴の形状から角材を用いていたと思われます。



5区1号竪穴住居



新カマド



新カマド遺物出土状況



旧カマド



瓦出土状況

上の写真は、5区1号竪穴住居です。この住居からは、2基のカマドが見つかっています。北側と東側に1基ずつ見つかっています。トンネル状に掘りくぼまれているのが旧カマドで、新カマドを作る時に壊されており、^{そで}袖などの施設がまったく残っていませんでした。新カマドの方は、袖がきれいに残っていました。本住居では、遺物がカマド周辺に集中して出土していました。その中でも、瓦の破片が床面に接して見つかっています。本遺跡では、大変珍しくこの1点しか見つかりません。どこからか転用する目的で持ち込まれたと思われます。